

関係者各位

関西電力大飯発電所4号機に係る情報がありましたのでお知らせします。

本日発生した4号機の電動主給水ポンプに係る続報です。

弁の部品（弁の開閉状態を検出器に伝達するための連結棒）が外れた原因は、連結棒の連結部（ねじ構造）にがたつき等があり、ポンプの運転による振動により連結部のねじがゆるみ、外れたものと推定されます。

故障のミニマムフローラインの弁については、外れた部品自体は健全であったため、がたつきのないように取り付け直しました。

その後、定例試験を行い、電動主給水ポンプの機能に問題ないことを確認し、10時58分に復旧しました。

また、3、4号機に設置されている同種類の弁（56台）についても点検を行い、がたつきやゆるみのないことを確認しました。

（以下、第1報の内容）

本日（23日）0時30分頃、大飯発電所4号機の電動主給水ポンプ※の定例試験を実施していたところ、異常が確認されました。このため、0時33分にポンプを手動停止しました。

※電動主給水ポンプ：蒸気発生器に二次冷却水を供給するポンプ。通常はタービン駆動の主給水ポンプにより水は供給されており、電動の本ポンプは予備のもの。0時20分に本ポンプを起動していた。

現場確認をしたところ、ミニマムフローライン※の弁が閉止していることが確認されました。

※今回の定例試験では、ポンプから出てきた水はこのミニマムフローラインを通過してポンプに戻る流れになっている。

今回の試験に伴う警報（「電動主給水ポンプ自動起動待機未完」）は出ているが、予期せぬ警報は出ていません。

ポンプ停止時に一時的に電気出力が変動（約0.8%上昇）したが、現在は定格出力に戻っており、また、タービン駆動の主給水ポンプは正常に機能していることから、運転状態に問題ないことを確認しています。

外部への放射性物質による影響はありません。

原因については、ミニマムフローラインの弁の部品が外れていることが確認されており、これにより弁が閉止したものと推定。部品が外れた原因については調査中です。

本件については、報道関係者との間で合意した即時公表に該当する事象ではありませんが、機器の故障が発生していることから、念のため、準備出来次第、プレス各社へメール配信する予定です。

以上